

ぎかいの杜

CONTENTS

9月定例会の審議……………	P2～3
常任委員会審査報告……………	P4～5
決算特別委員会……………	P6～7
一般質問……………	P8～14
所管事務調査報告……………	P15
議会報告会のお知らせ……………	P16

NO.93 令和8年11月1日号

9月定例会などの内容をお伝えします。



AIデマンド交通の実証運行開始!

～ 阿仁地区から米内沢駅間にて ～



「認定第1号 令和7年度北秋田市一般会計歳入歳出決算の認定について」の起立採決

令和8年度一般会計補正予算 11億6408万9千円を追加

▼令和8年度一般会計予算

今定例会に上程された令和8年度一般会計予算は、11億6,408万9千円を追加し、総額は276億3,377万5千円となりました。

補正予算の主な事業とその予算額は下記のとおりです。

主な補正予算	予算額
林業施設災害復旧事業	2億5674万2千円
公共土木施設災害復旧事業	1億2986万3千円
阿仁地区A I デマンド交通実証運行事業	1676万7千円
非課税世帯灯油購入費助成事業	2622万3千円
軽費老人ホーム利用料等負担軽減事業	837万円
保育所等給食費価格高騰対策事業	391万2千円
クマ対策グッズ配備事業（保育園・小中学校等）	83万3千円
住宅リフォーム支援事業	1540万円

令和8年 9月定例会

令和8年北秋田市議会9月定例会は、9月1日から9月30日までの30日間の会期で行われました。
今定例会では、承認1件、条例案4件、補正予算案8件、単行議案1件、報告4件、認定19件のほか、17日に、補正予算案1件、最終日に、人事案件1件が提案され、いずれも原案のとおり承認、可決、認定及び同意としました。

9月定例会の主な議事

- 専決処分承認を求めることについて（専決第11号 令和8年度北秋田市一般会計補正予算（第4号））
- 北秋田市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について
- 北秋田市道の駅たかのす条例の制定について
- 北秋田市大太鼓の館条例の一部を改正する条例の制定について
- 北秋田市景観条例の一部を改正する条例の制定について
- 令和8年度一般会計補正予算（第5号・第6号・第7号）
- 令和8年度各特別会計補正予算（第1号）
- 令和8年度病院事業会計補正予算（第1号）
- 工事請負契約の締結について（阿仁スキー場 PCB含有変圧器更新工事）
- 令和7年度各会計決算の認定（19会計）

9月定例会最終日の様子は
こちらのQRコードから
ご覧いただけます。



賛否が分かれた議案等の表決状況

○：賛成 ●：反対 ▼：欠席もしくは退席 除：除斥

議 案 名	所属会派・議員氏名	採決結果	瑞北会							新創会				市民クラブ			日本共産党		公明党	無党派
			松橋久敏	木村信人	永井昌孝	畠山正和	石崎賢一	佐々木正史	小笠原寿	松橋史尚	佐藤将人	木村謙一	杉淵一弘	佐藤伸	成田康浩	小松正彦	板垣淳	久留嶋範子	福田牧子	福岡由巳
※議長は採決には加わりません。																				
議案第78号 北秋田市道の駅たかのす条例の制定について		可決	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●
議案第79号 北秋田市大太鼓の館条例の一部を改正する条例の制定について		可決	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
認定第1号 令和7年度北秋田市一般会計歳入歳出決算の認定について		認定	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	除	●	●	○	●
認定第17号 令和7年度北秋田市病院事業会計決算の認定について		認定	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○	除	●	●	○	●

※小松正彦議員は監査委員のため、決算の採決時には除斥

賛成・反対討論

▼議案第78号

反対討論 板垣 淳 議員

多くの市民が反対しているのに進めるのは認められない。住民投票を提案したが市長は拒否した。建設費39億円のうち借金が20億円余。これをこの先の若者に払わせていいのかが問われている。

賛成討論 永井昌孝 議員

使用料は家賃とは性格が異なり、出店確保が財産の効率的運用につながる。開業準備のため今定例会で議決が必要である。許可は1年ごとの更新で、検証と議会への報告を求め賛成した。

反対討論 福岡由巳 議員

アウトドア用品販売施設の使用料は「家賃＋売上歩合」が大規模テナントではよく採用されている方式であるが、モンベル店と特定し年額360万円は優遇措置の何物でもない。改めるべきである。

賛成討論 成田康浩 議員

「国定公園指定を契機にストリーを持った唯一無二の価値を地域内外で共有・発言」するためには、北秋田市に今までにはなかった発想と実行力が求められている。モンベルの協力が必要である。

▼認定第1号

反対討論 板垣 淳 議員

市のお金は人件費や公共施設の維持管理費、借金返済など必ずかかる支出だけでほぼ消える。つまり新しい事業に手を出す余裕はないのに道の駅という大事業に足を踏み出した。認められない。

反対討論 福岡由巳 議員

一般会計決算の経常収支比率は97・3%とこれまでの最高値を示し「深刻な硬直化」と評価される。特に、観光施設指定管理料等の物件費の歳出増が顕著であるなど財政政策の改善が急務である。

▼認定第17号

反対討論 久留嶋範子 議員

昨年の議会報告会でも、市民病院の体制・経営に関してや、産科休止での若者層流出を懸念する意見があった。一般病床削減により、市民は不安を募らせている。厚生連との連携を強め、更なる改善策を。

反対討論 福岡由巳 議員

令和7年度の患者数は前年度と比較して外来、入院いずれも大幅に減少し経営の改善とは言えない。常勤医師、看護師の増員と通院環境の改善に努め、これ以上規模を縮小せず医療の充実を求める。



総務文教常任委員会 総合案内カウンターを改修

[委員長] 松橋久敏 [副委員長] 佐藤将人 [委員] 成田康浩／石崎賢一／板垣 淳／杉淵一弘

当委員会に付託された案件は、予算案4件でした。

一般会計補正予算の総合政策課の審査では、委員から「首都圏合川会における地元特産品の出店販売を行う業者への謝礼について、対象は合川地区の業者か。」との質疑があり、当局からは「必ずしも合川地区とは限らない。」との答弁がありました。

財政課の審査では、委員から「市民課に設置している総合案内の一部リニューアルについて、詳しく説明を。」との質疑があり、当局からは「既存カウンターの高さをお年寄りの目線に合わせることや、職員がカウンターを出ての対応もスムーズにできるよう改修する。」との答弁がありました。

学校教育課の審査では、委員から「郷土資料集『さらり☆きたあきた』は出来が良く、欲しい方がたくさんいるだろうと期待していたが、何が問題で販売できないのか。」との質疑があり、当局から「写真

の撮影者が特定できない状況で、有償販売での使用について、撮影者を追跡し許可をとるのは相当難しく、市の顧問弁護士に相談した結果、学校で使うことや公的な場所で見ただく分には問題ないとの回答であったため、市内の施設などに無償で配布する形をとらせていただいた。」との答弁がありました。ほかの委員から「クマ撃退スプレーについて、練習用でない実物のスプレーも各学校に配備されているのか。」との質疑に、当局からは「各校にスクールガードの方々の分1本と、予備として3本を配布している。今回、校外学習に出かける場合に備えた追加分と、練習用を含めた購入費用を計上している。」との答弁がありました。

以上のような審査を踏まえ、全ての議案を全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

(委員長 松橋久敏)

市民福祉常任委員会 非課税世帯へ灯油購入費

[委員長] 福田牧子 [副委員長] 小松正彦 [委員] 木村信人／永井昌孝／木村謙一／小笠原寿

当委員会に付託された案件は、条例案1件、予算案4件の計5件でありました。

一般会計補正予算の所管分福祉課の審査では、灯油購入費助成事業について、委員から「申請から受給までの流れ」について質疑がありました。

当局からは、「10月20日時点で該当する非課税世帯へ公金受取口座登録者に支給決定通知を発送。登録されていない方には口座確認書を発送。11月19日、1回目の振込。漏れが無いようできる限り対応したい。」との答弁がありました。委員から「1世帯、5千円となった理由」についての質疑がありました。

当局からは「助成の灯油を200ℓとし、過去2年の配達灯油単価と比較、上昇分の24円／ℓを乗じて算定した。」との答弁がありました。

介護保険特別会計補正予算では、委員から「今9期介護保険計画の繰越金がすごく増え、基金は過去最高額だが、

介護保険計画の今後の見通しについては、」との質疑がありました。

当局からは、「基金残高が6億8千万ほどとなったのは、平成25年頃から高齢者の減少傾向となり、さらに人口減少により給付の減少が基調になっている。」

もう一つは、昨年来の介護保険料の算定基礎の高所得者の保険料が細分化された事で高所得者に属する方々が増え、介護保険料収入が増加。今後も同じ傾向が続くと考える。次年度計画は、明確ではないが傾向を踏まえた形になれば。」との答弁がありました。以上のような審査を踏まえ、提出議案は全会一致で原案のとおり可決すべきものと決しました。

(委員長 福田牧子)

産業建設常任委員会

道の駅たかのすの条例の制定

【委員長】佐々木正史 【副委員長】久留嶋範子 【委員】松橋史尚／畠山正和／福岡由巳／佐藤 伸

産業建設常任委員会に付託された事件は、条例案3件、予算案1件、単行議案1件でした。

委員から「道の駅基本計画において、既存の大型遊具はどうなるのか。」との質疑に、当局から「現在の大型遊具は老朽化が進んでいるため、撤去し既製品の大型遊具等を計画している。」との答弁がありました。また、委員から「施設区分にアウトドア用品販売施設と細かく規定されているが、ほかの物品販売への制約が出るのではないか、幅広く制定すべきでは。」との質疑に、当局からは「道の駅たかのすの基本コンセプトとして、アウトドアを核とした観光振興の方向性を明確にしたものであり、アウトドア用品に限定し販売という趣旨でないが、モンベルの売店を想定しているため、この名称としている。」との答弁がありました。また、委員から、「施設の使用は適正

な金額なのか。」との質疑に、当局からは、「使用料については先行自治体の最大値である月額1㎡300円を参考にしている。これは企業誘致に匹敵する案件であり、市全体の経済波及効果も期待し、多角的な観点から判断したものである。」との答弁がありました。

採決にあたり、「市民への説明や理解が不十分であり、管理運営や概算事業費積算も不十分である。」との討論や、「維持管理費運営費の一部を補うものではなくて、家賃として求めるべきである。各委員の質問にあったように、不備な点が見られ、早急だと考える。」との討論がありました。

（委員長 佐々木正史）

閉会中の所管事務調査報告（抜粋）

総務文教常任委員会

7月17日に「秋田内陸縦貫鉄道の安全対策と防災・減災に向けた取組について」の調査を実施しました。

激甚化する自然災害により、令和7年12月に発生した脱線事故は、倒木によるものとみられており、事故後の安全対策等の取組について話を伺いました。会社では、こうした倒木リスクに対する中長期的対策として、県の交付金を活用した事業により、危険箇所の可視化と科学的調査を実施。上空からの航空レーザーや地上でのレーザー機器を搭載した鉄道MMS等による計測を実施し、地形解析及び樹木調査と倒木リスクについて評価診断を行っているとのことでした。

（文責者：副委員長 佐藤将人）

市民福祉常任委員会

7月10日に「旧クリーンリサイクルセンター解体工事について」の調査を実施しました。

当局から解体スケジュールや財源などの説明があった後に、解体施設の視察を行いました。

質疑応答では、解体費用の予算について、建物解体工事に約6億7千万円、仮設工事に約2億円、土地の汚染調査、除去費用に約1億3千万円などであることや、環境モニタリングについて、汚染物質が外に出ないように建物自体を目張りすること、工事前から工事終了まで定期的なモニタリング調査を行うことなど、安全対策を万全に行うとの説明がありました。

（文責者：副委員長 小松正彦）

産業建設常任委員会

7月27日に「ジビエの現状と今後について」の調査を実施しました。

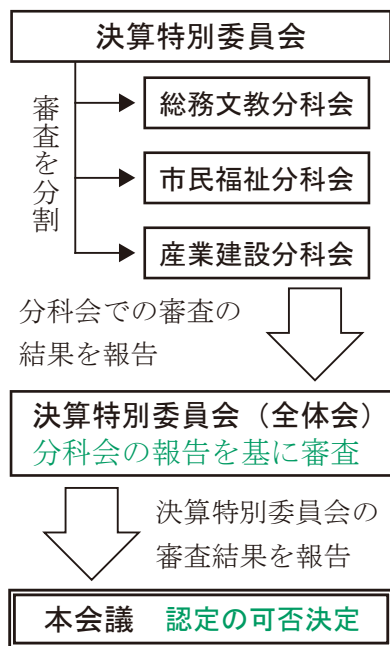
阿仁根子集落に移住し、マタギ文化を継承、現在は古民家を回収し、『マタギの台所ウヘエ』を運営している船橋陽馬氏より現地での説明を受けました。集落仲間6人で合同会社を立ち上げ、昨年2月に解体処理施設が完成し、今年7月にグランドオープンしました。古民家改修には県や市の補助金を活用。ジビエの解体処理、飲食宿泊の総合的な事業となっており、ジビエの解体処理施設だけでは利益が上がらないと判断し、飲食と宿泊を組み合わせる仕組みを構築しているとのことでした。

（文責者：副委員長 久留嶋範子）

決算特別委員会

令和7年度 各会計決算を審査

審査の流れ



今定例会には令和7年度各会計決算の認定19件が提出されました。

議会では、広範囲に及ぶ決算審査を専門的かつ効率的に行うため、9月1日の本会議において、議長と議会選出監査委員を除く16人の議員を委員とした決算特別委員会を設置しました。

9月1日に委員会を開催
委員長に福岡由巳委員

9月1日に決算特別委員会を開催し、委員長と副委員長を互選したほか、より詳細な審査を行うため、審査は常任委員会を分科会として位置付けた「分科会方式」で行うこととし、分科会委員長は各常任委員長が務めることに決定しました。

【委員長】 福岡 由巳
【副委員長】 松橋 史尚
【分科会委員長】
総務文教 松橋 久敏
市民福祉 福田 牧子
産業建設 佐々木 正史

各分科会の審査の中で出された質疑及び答弁を要約してお伝えします。

総務文教分科会

委員 秋田内陸線乗車促進貸切車両等補助金について、補助金の枠を増やし、さらなる乗車促進を図るべきではないか。

答弁 当該事業は、本市のみが実施していることも踏まえ、慎重に検討する必要がある。制度の在り方について、次年度に向けていろいろな角度から検討していく。

委員 公共施設解体の優先順位について、行政の透明性や市民への説明責任の観点から公開すべきではないか。

答弁 優先順位と公開については、北秋田市公共施設適正化推進会議において、解体する施設の優先度を定めており、毎年度更新している第3次北秋田市総合計画

実施計画に登載し、示していきたいと考えている。

委員 職員による暴力をどのように総括し、反省したか。また、業務ミスなどが続いている原因は何だと考え、対策をどう講じたか。

答弁 暴力行為については、コンプライアンス意識やコミュニケーション能力の欠如が招いたもので、市としては、事態を厳粛に受け止めて、綱紀粛正の徹底を図っている。業務上のミスや失念については、注意不足、業務の偏りや引継ぎ体制の

不備など、さまざまな要因があるものと認識している。再発防止に向け、コンプライアンスの徹底と職場環境の改善に全力で取り組む。

市民福祉分科会

委員 消防団員の減少に対し人数の目標はあるか。

答弁 広報やホームページを通じて、二十歳の集いで広報活動実施。オンラインでも入団可能であり、消防団応援の店登録が28事業所あり、推進していく。

委員 避難行動要支援者支援事業の計画作成者81人の要因と受け止めは。

答弁 優先度の高い順で作成増やすために委託以外の方法も模索中。

委員 子育てアプリの利用状況。

答弁 令和7年度324人、6年度278人、母子手帳のアプリ版。ラインと連動



市長に対する総括質疑
(総務文教分科会)

させ活用。

委員 高齢者のあんしん電話を固定電話以外での活用は。

答弁 令和7年度75件の通報のうち16件が緊急通報、新規利用希望が10数件ある。ボタンを押せば通報できる。即応性を大事にしたい。

委員 3診療所の繰出金が多額だが、今後、縮小の計画は。

答弁 その地域に一つしかない医療機関。経営経費を抑えてサービス向上を図る。ある程度の赤字補填は必要との考え。長期経営プラン策定事業を進めている。

委員 空家等の対策の立入調査と実態調査の委託先と、特定空家等に該当する件数は。

答弁 立入調査は市内の建築士に、実態調査は秋田市の業者にそれぞれ委託。危険度が高い特定空家は60件で秋田のコンサルタントが調査。

産業建設分科会

委員 農業者の高齢化、環境負荷の関係から、生分解性マルチに対しての助成は出ないか。

答弁 長期に保存出来ないのを検討しているが、実施出来ていない。

委員 地域産業課題解決事業では、どんなことが行われたか。

答弁 移動式コンテナを使った事業者が宿泊事業者の誘致や防災機能としての活用模索のため産業祭や鷹巣駅前での展示を実施。又、専用端末での阿仁スキー場と阿仁合駅・観光協会を結んで観光相談の実証をした。

委員 県内中高生との合同練習が企画されているとのことだが、合宿を行った団体はどこか。

答弁 合宿団体は、東北文化学園大学のフェンシング部

や、国立市スキー・スノーボード連盟が利用している。

委員 昨年は大雪で除雪が大変だったと思うが、意向調査は進められているか。

答弁 意向調査は現在進めている段階で、冬季オペレーターを募集中。また、オペレーター不足に対しても、今後検討して取り組む。

委員 15年間開催されなかった水道料金審議会について、今後の開催頻度や料金格差縮小に向けた考えは。

答弁 今後3年から4年の周期で審議会を開催し、料金改定について検討していく。



市長に対する総括質疑
(産業建設分科会)

【本会議・最終日】
決算特別委員長の審査報告

委員長 福岡 由巳

本委員会に付託された事件は19件でありました。9月1日に決算特別委員会を設置し、総務文教科会10件、市民福祉分科会8件、産業建設分科会3件について、9月10日、11日の2日間で審査を行い、9月17日には市長に対する総括質疑を実施しました。そのうえで9月28日に結審しました。その審査の結果について報告します。

認定第1号「令和7年度北秋田市一般会計歳入歳出決算の認定について」は、賛成多数で認定すべきものと決しました。

認定第2号「令和7年度北秋田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について」から認定第16号「令和7年度北秋田市大阿仁財産区特別会計歳入歳出決算の認定について」までの15件については、全会一致で認定すべきものと決しました。

認定第17号「令和7年度北秋田市病院事業会計歳入歳出決算の認定について」は、賛成多数で認定すべきものと決しました。

認定第18号「令和7年度北秋田市水道事業会計歳入歳出決算の認定について」及び認定第19号「令和7年度北秋田市下水道事業会計歳入歳出決算の認定について」は、全会一致で認定すべきものと決しました。



決算特別委員会での採決の様子
(一般会計歳入歳出決算の認定について)

一般質問は、9月3日・4日の2日間で行われ、13人の議員が登壇しました。

小松 正彦 議員（P8）

- ◆地域産材の活用について
- ◆観光振興について
- ◆高齢者対策について

佐々木 正史 議員（P9）

- ◆人口減少対策について

永井 昌孝 議員（P9）

- ◆除排雪事業について
- ◆「道の駅たかのす」について

木村 信人 議員（P10）

- ◆コミュニティスクールおよび地域学校協働活動について
- ◆道の駅たかのす整備計画における防災機能について
- ◆防災・安全情報における市民参加型のLINE活用の推進について

福田 牧子 議員（P10）

- ◆持続可能な地域社会
- ◆地域で子どもの居場所を支える

木村 謙一 議員（P11）

- ◆打当温泉マタギの湯について
- ◆森吉山高津森クロスカントリーコースについて

板垣 淳 議員（P11）

- ◆米内沢地区の生活環境について
- ◆大館能代空港の「特定利用空港」化について
- ◆介護保険料について
- ◆国民健康保険税について

福岡 由巳 議員（P12）

- ◆道の駅たかのすのモンベル直営店について

成田 康浩 議員（P12）

- ◆「道の駅」に併設するモンベルに関連して
- ◆レベル4、自動運転社会実装推進事業について
- ◆ホテル松鶴の現状に関して

石崎 賢一 議員（P13）

- ◆秋田県管理道路の今後のあり方検討事業について
- ◆買い物拠点が無くなることへの影響について
- ◆米内沢（阿仁川）に架設されている仮橋（旧米内沢橋）について
- ◆公私立保育園の閉園について

松橋 久敏 議員（P13）

- ◆高齢者福祉について
- ◆林野火災について

久留嶋 範子 議員（P14）

- ◆少子化対策について
- ◆非核・平和への取り組みについて
- ◆第4次北秋田市男女共同参画計画について

畠山 正和 議員（P14）

- ◆要綱の取り扱いについて
- ◆博物館の存在意義向上のための取り組みについて
- ◆森吉山ブランドの強化について
- ◆ごみ収集車やごみ処理施設等の事故防止について

Q

綴子は羽州街道の要衝として、

A 国による現地調査等が行われるよう県に働きかけている。また、指定につながるよう大太鼓の館の展示の充実や、資料の収集・整理など、学術的な調査・研究の基盤づくりを進める。

Q

綴子大太鼓の重要無形民俗文化財の指定に向けた取組を。

A 地元産木材の活用を着実に進めるため、各事業者が連携し課題や需要に関する情報を共有することが重要。広域協議会への参画を含め、地元産木材利用の具体化に向けた取組のあり方を検討する。

Q

地元産木材の活用に向けて、関係事業者等とワークショップを開催するなど、産学官連携による取組を進めるべきではないか。

綴子大太鼓を重要無形民俗文化財へ



（こまつ まさひこ）
小松 正彦 議員
（市民クラブ）



俳優の高橋克典さんも参加

A サービス事業者や担い手の不足等が課題となっている。地域のニーズを踏まえた「北秋田市型」の支援体制や事業内容について、関係機関と協議・検討する。

A

老々介護や単身の高齢世帯の増加などに対応すべく高齢者支援の充実が急務である。専門職の確保と支援体制拡充の取組を。

Q

老々介護や単身の高齢世帯の増加などに対応すべく高齢者支援の充実が急務である。専門職の確保と支援体制拡充の取組を。

A 道の駅たかのすが市民や観光客に親しまれる施設となるために、羽州街道と地域の残る文化財の保全・活用を地域の皆様とともに、具体的な進め方を考えていく。

A

道の駅たかのすが市民や観光客に親しまれる施設となるために、羽州街道と地域の残る文化財の保全・活用を地域の皆様とともに、具体的な進め方を考えていく。

参加交代の際には本陣が置かれるなど宿場町として栄え、多くの名所・旧跡が伝えられている。それらの文化財と旧羽州街道を観光振興に活用できないか。

(ささき まさし)
佐々木 正史 議員
(瑞北会)



人口減少対策について

Q 北秋田市の人口は、1955年の約6・7万人をピークに現在約2・6万人まで減少し、直近5年間で約3700人減るなど「自然減」と「社会減」が同時進行する深刻な状況である。特に若年女性の流出が出生数減少を加速させる「負の循環」を生み、抜本的対策が不可欠とされる。若者流出の要因は進学・就職による県外移動であり、教育費返済が晩婚化を招き出生数減少を強めているため、地域内学習・就業が完結する環境整備が重要とされる。

具体的な対策として、大学機能誘致、通信制大学との連携、林業研修機関との協働、農林業・土木・福祉・観光ジャンルの学費全額補助、リスクリング支援の強化が必

要ではないか。

A 人口減少を食い止めるためには、若者の地元定着やふるさと回帰の促進、地域産業を担う人材の育成や確保、移住者の受入れ等が重要であると認識している。教育・人材育成に関する施策は中長期的に効果が現れることが多いため、財源や継続性、国県の制度との役割分担を踏まえ慎重な検討が必要と考えている。

その上で今年度からの第3次総合計画に基づき、教育・雇用・産業振興・移住定住・結婚・出産子育て支援を横断的に進め、若者が地域を知り地域と関わり、この北秋田で働き暮らす事が選択される環境を醸成していく。



過疎の第一歩
そして誰も居なくなった

(ながい まさたか)
永井 昌孝 議員
(瑞北会)



守りの除排雪と 攻めの道の駅

Q 大雪を踏まえた除雪体制の課題と対策は。

A 排雪場の拡張・増設など除雪計画を見直し、10月11月頃に示すGPSによる運行管理は他自治体の事例を調査。包括委託や広域連携も研究する。

Q 担い手確保と負担軽減策は。

A 現在52人で横ばい。資格取得の促進と技術継承で育成し、休息確保と交代体制で負担を軽減する。

Q 間口に残される雪への対策は。

A 他自治体を研究し、再来年までに除雪体制を抜本的に見直す。
Q 福祉の雪事業の支払い方法は、チケット制など、次年度以降の変更に向け検討。

Q 除雪負担の軽減を人口減少対策に。

A 移住体験で冬の暮らしを伝え、雪国の魅力もPRし定住を促進。

Q 道の駅たかのすのリニューアルにかかる市の実質負担を市民に分かる形で示すべき。

A 財源内訳は説明資料で公表。維持管理費は精査中で、実施設計が完了する今年度末以降に示す。

Q 建設地の選定経緯は。

A 令和2年度に4か所を比較し決定。経緯を説明資料に明記する。
Q 双方向の説明の場を設けては。要望があれば、どこへでも出向き説明する。

Q 稼ぐ拠点に育てる決意は。

A 後世に負債を残さない攻めの投資。機会をつくり自ら説明する。



記録的な大雪となった昨冬の除雪作業

(きむら のぶひと)
木村 信人 議員
(瑞北会)



地域学校協働活動・道の駅の防災は

Q 地域学校協働活動の市民の認知度について。

A 調査をしていないため把握できていない。他の自治体の例も参考にし、広く周知に努めていく。

Q 祖父母世代など幅広い世代に参加を促す施策は。

A ものづくり、農業、伝統芸能などで協力いただいている。高齢者、企業などの様々な分野に参加を求め、伝承、後継者育成にも努めて、活動の輪を広げていきたい。

Q 活動成果の検証、共有について。

A 毎年成果や課題の共有を行なっている。合川小学校と鷹巣小学校は文部大臣表彰を受けている。

Q 道の駅たかのすの整備後の避難所受け入れ人数は。

A 整備後の子育て応援施設を避難

所とし、大幅に増える見込み。

Q 工事期間中の避難所機能は。

A 綴子の自治会館や、県の技術専門校と協議し、市民にも周知する。

Q RVパークの災害時の活用。

A 電源設備、排水機能を備える予定。避難者受け入れ、車中泊避難の活用が考えられ、協議していく。

Q 防災道の駅認定は未定とのことだが、業務継続計画（BCP）策定の予定は。

A 現状予定はないが、今後検討していきたい。

Q 市の公式LINEに双方向性を持たせる予定は。

A 県内3市の運用を確認している。誤報、情報の重複、悪戯の対応が懸念される。先行自治体から情報収集し、慎重に検討する。



LINEの通報機能

(ふくだ まきこ)
福田 牧子 議員
(公明党)



持続可能な地域を男女共同で作る

Q 「男性である」「女性である」という性別や、年齢に関係なく誰もが安心でき心地よく暮らすために

「北秋田市のすべての人の人権を守る」男女共同参画計画が令和8年3月策定されたが、市役所内ジェンダー平等の評価は。

A 男性の育児休暇取得率と女性管理者の割合が市内事業者より低い。消防本部・建設部・産業部の女性の比率が低い。職員対象の家事分担の個別調査はしていない。女性職員の管理職登用推進のスキルアップ研修を実施。

Q 地方公務員における若手職員離職傾向が秋田県、全国的に増加傾向だが、当市の現状と部署ごとの業務分掌マニュアルやメンター制の導入の検討は。

A 若手の退職が平成28年度からの10年間で2倍に増加、若手職員の定着支援や心理的サポートに有効な手段と認識、調査研究する。

Q 教育現場における偏見を持たせない教育内容は。性に対する正しい知識（受精に至る過程、性交による妊娠の経過）の教育の実施は。

A 中学校社会科で平等権の学習、道徳科で相手を尊重し男女共生社会を教育。性教育講座では、医師からの専門的指導を実施。

Q 文科省で実施している放課後子ども教室は、すべての子どもを対象として安全・安心な居場所を地域が共同参画して実施しているが、当市での導入は。

A 地区5カ所で月に何回か、事前に周知した内容で実施。



男女共同 - こども参画社会

(きむら けんいち)
木村 謙一 議員

(新創会)



打当温泉を

「滞在型観光拠点」へ

Q 現在の経営状況及び施設の老朽化について、どのように評価し、どのような課題を認識しているか。

A 業績は回復傾向にあり、市としても引き続き指定管理者と課題を共有しながら、経営改善に向けた取組を支援していく。温泉設備をはじめ施設本体の大規模改修についても、早期に取り組むべき段階にあると認識をしている。

Q 今後、施設の改修や更新を行う際、単なる老朽化対策にとどまらず、宿泊機能、食、温泉、サウナ、ワークショップ、マタギ文化、森吉山の自然体験等を組み合わせ、宿泊客の滞在時間を延ばす「滞在型観光施設」への転換という視点を取り入れる考えはあるか。

A 指定管理者と連携しながら、森

吉山を中心とした体験・滞在型観光を推進するため、秋田内陸線や森吉山阿仁スキー場をはじめとする観光資源との連携をさらに強化をしていく。

Q 森吉山高津森クロスカントリーコースの復旧について。

A 2年前の集中豪雨の発生後、大規模なおり面崩落が確認された。多額の工事費が見込まれるため、全面的な復旧は困難。今後の在り方は利用状況を踏まえながら関係者と協議する。



打当温泉マタギの湯

(いたがき じゅん)
板垣 淳 議員

(日本共産党)



米内沢地区の

生活環境守って

Q 秋田県が発表した米内沢橋の廃止は撤回を求めるべき。

A まず県の考えを聞いて必要な対応を考えたい。

Q 地元が大騒ぎになっているときにそんな態度では困る。

A 知事と会った際に話した。説明があつたらまた話す。

Q ラポールとAコープが閉店し、車を持たない高齢者や野菜等を出荷していた農家が困っている。

A 日常生活に大きな影響を及ぼすので、デマンドタクシー、移動販売、宅配サービスなど多角的に調査・研究する。

Q 森吉コミセンは旧米内沢病院跡地に建てることに決まったが、住民から「現在地にも何か残してほしい」という声が上がっている。

この声に応えるべき。

A 検討する。

Q 大館能代空港の「特定利用空港」化に反対し、知事にも申し入れるべきだ。

A 国からは災害時の輸送に資するものと説明を受けている。

Q 特定利用とは自衛隊が訓練する空港という意味で、実際に訓練するのは戦闘機。それがなぜ災害対応なのか。国にだまされないで。

A 何が正しく何が間違っているか見極めた上で対応していく。

Q 来年は介護保険改定期だが、保険料は値上げしないように。

A 負担に十分配慮する。

Q 国民健康保険税のこどもの均等割は廃止すべきでないか。

A 国が行うべきと考えている。



撤去が検討される米内沢橋

(ふくおか よしみ)
福岡 由巳 議員
(無会派)



1㎡当たり月300円の算定根拠は

Q モンベル直営店のテナント料は「地方財政法に基づくものではなく、施設の維持管理費や運営経費の一部を賄う収入として位置づけられるもの」と答弁している。具体的に維持管理費や管理運営とはどんなものか。

A 建築の設備、建物全体の警備、設備の保守点検、除雪費等である。

Q 「位置づけられる」という根拠は何か。

A 今般提案している「道の駅たかのす条例」で位置づけられているものと考えている。

Q 今回の議案にある1㎡あたり1カ月300円の使用料の算定根拠はどのようなものか。

A 全国8自治体の事例により、当市も同様に300円に設定した。

Q その8自治体の算定根拠はどうであったのか。

A 8自治体のうち、先行した南富良野町が300円でスタートした。その後、他の自治体が続き一律に契約したと聞いている。

Q 今回提案された条例案では、格安のテナントとなっている。このような企業への優遇措置は結果的に北秋田市の財産上に損害を及ぼす行為に当たると思うが。

A 指摘は当たらないと考える。

Q 地方債は一般財源合わせ25・9億円は地財法に基づき償還する。これにモンベル直営店が関係ないというのは間違いでないか。年額360万円にしてあげるのは優遇措置の何物でもないと感じないか。

A 検討した結果提案している。



市民が疑問を抱く道の駅

(なりた やすひろ)
成田 康浩 議員
(市民クラブ)



レベル4実証実験とホテル松鶴問題

Q 国土交通省所管の地域公共交通確保維持改善事業(自動運転事業関係)に、令和9年度以降公募を検討する考えはあるか。この北秋田市が全国に先駆けて何かをするという、若い世代にも夢を与えるような事業を推進することについて。

A 現時点では市内における本格的な検討には至っておらず、直ちに応募できる計画はない。先進地の動向や技術開発の状況、国の支援制度などを注視しながら、引き続き調査研究を進めていく。

Q ホテル松鶴の状況に関して、外壁崩落などの危険性を市はどのように認識しているのか。

A 風雪等による経年劣化が進んでいることから、市としてもその状

況を重く受け止めている。特に外壁の落下など建物の老朽化に伴う安全上の懸念については周辺を通行する歩行者や車両の安全を確保する観点から、大変憂慮すべき状況にあると認識をしている。

Q モンベルとの包括連携協定に「エコツーリズムの促進による地域経済活性化に関すること」とあるが、これに関して具体的な取組を行っているか。

A 令和7年3月には、北東北で初めてとなるジャパンエコトラック北秋田森吉山が登録された。観光消費の拡大や滞在時間の延長、経済波及効果の拡大につなげていく。



旧ホテル松鶴の現状

(いしざき けんいち)
石崎 賢一 議員
(瑞北会)



米内沢橋の撤去の 公表を受けて

Q 県が撤去を検討する米内沢橋の公表を受けての市長の所見は。

A 「撤去」という言葉が先行し、地域住民が大きな不安を感じていることは認識している。混乱が生じる事のないよう県との情報共有に努めていく。

Q 米内沢地域の買い物インフラ整備について。

A 公共交通の視点から、乗り合い交通や移動販売の導入、ミニスーパーの開設など、効果的で実現可能な対応について、調査・研究を進めていく。

Q 老朽化した仮橋（旧米内沢橋）の撤去について。

A 撤去時期は、計画上2030年以降としているが、撤去に要する事業費や財源などを総合的に勘案



撤去検討の米内沢橋

しながら具体的に検討する。

Q 七日市保育園の園児の受け入れ状況と職員への処遇についての支援は。

A 転園は円滑に進む見込み。職員への処遇に対する支援については、市内の保育所等との求人情報の共有を促進し、再就職に向けた支援に努める。

Q 前田保育園閉園後の施設の活用について。

A 保育所以外の子ども・子育て関連事業を実施する方向で検討している。

Q 前田保育園閉園後の職員の処遇について。

A 米内沢・阿仁保育園への配置替を基本とするが、新たな利活用施設への従事も検討している。

(まつはし ひさとし)
松橋 久敏 議員
(瑞北会)



老人クラブへの支援を

Q 老人クラブは会員数の減少、高齢化、役員の担い手不足、活動の固定化などが課題になっている。市の支援は。

A 単位老人クラブの補助金を見直し、小規模なクラブへの支援の充実を図ってきた。今後は、どのような支援が効果的であるか、関係団体と連携しながら検討していく。

Q 単身高齢者の増加が見込まれる中で、利用者同士が支えあいながら生活できる高齢者シェアハウスが注目され、国では全国的に整備する方針である。高齢者シェアハウス整備についての市の考えは。

A 国が進める普及啓発事業を通じて、具体的な事例や取組状況、支援制度などの情報収集と、本市の高齢化の実情、利用者ニーズを踏

まえ、市としてどのような支援が可能であるか検討する。

Q 近年、全国で大規模な林野火災が発生し、各地で大きな被害が報告されている。市の対策は。

A 林野火災注意報を発令した際は、巡回広報、市ホームページや防災ラジオにより市民へ注意を呼びかけている。林野火災発生時の初動体制は、地上消化活動と状況に応じて、県防災航空隊に出動を要請し、空中消火を行うなど関係機関と連携し対応する。また、消防用水が必要な場合、災害時の応援協定に基づき、民間事業者のコンクリートミキサー車を活用する。今後は、簡易水槽の整備を進めるとともに、消防団の小型動力ポンプ等を計画的に更新していく。



老人クラブの活動

(くるしまのりこ)
久留嶋 範子 議員
(日本共産党)



非核・平和都市 宣言を広く市民へ

Q 人口減少対策として、若い世代が安心して暮らし続けられる環境づくりが求められる。どのような施策を考えているか。

A 若い世代の定住に向け、地元就職を支援する奨学金返還や資格取得の支援などを実施。結婚から妊娠、出産、子育てなどライフステージに応じた支援を総合的に展開していく。

Q 「非核・平和都市北秋田」宣言を遵守し、市民へ広く知らせるべきでは。本庁、各庁舎では看板が掲げられているが「宣言文」を掲示できないか。市民団体が今年も「原爆の絵・写真展」を開催した。昨年は、教育委員会の後援で2回開催、その内1回が市との共催、今後も協力し、取組むべきでは。

A 本庁舎などに宣言の看板を設置、事務用封筒に非核・平和都市を表記するなど周知を図ってきた。市のホームページや広報紙などを活用して市民が内容に触れる機会を増やすことで浸透を図っていきたい。原爆の絵・写真展は平和について考える機会を継続して提供できるよう、主催する団体の意向を伺いながら、共催を含め前向きに検討していきたい。

Q 男女共同参画に関する5ヶ年計画を策定したが、どのように推進していくのか、前回の目標値は達成できたのか、現状と課題は何か。アンケート結果をどう受け止めるか。

A 関係団体等で構成する推進会議において、目標達成に向けた進捗、管理を適切に行っていく。



本庁舎に掲げられた横断幕

(はたけやま まさかず)
畠山 正和 議員
(瑞北会)



秋田道鷹巢I・Cの 名称変更の想定を

Q 市民との情報共有、職員間の情報のための要綱の一覧化を。

A 他自治体における導入状況や運用事例等も参考にしながら、要綱の適正な管理とインターネット上での公開のあり方について課題を整理し、取組を進める。

Q 大太鼓の館の改修工事にあたって、「木造阿弥陀如来坐像（円空仏）」をはじめとする文化財はもとより、「綴子神社の千年桂」等の羽州街道沿線の名所や旧跡を紹介することにより、地域への関心を誘うように。

A 実施設計業務において、綴子大太鼓に加え、綴子地区の魅力も発信し、多くの市民や観光客が楽しめる施設となるよう、引き続き検討する。

Q 市郷土文化保存伝承館のキャプション（展示物の傍らに添える解説板）の更新、充実を。

A 現状と課題について地域の皆様と認識を共有し、協働による展示内容の改善に着手する。

Q 秋田自動車道「鷹巢I・C」の名称を「鷹巢森吉山I・C」に変更した場合の想定、試算をしてみては。

A 容易に変更できるものではないと考えているが、他自治体の事例等について情報収集を行いながら、実現可能性について研究する。

Q リチウムイオン電池の事故防止策は。

A 丁寧な周知に努めるほか、回収・保管時の安全対策について研究を進めるとともに、回収拠点の拡充についても検討する。



改修予定の大太鼓の館

議会運営委員会

柴田町・南陽市を

視察研修

調査項目

▽子ども議会について

▽南陽みらい議会について

議会運営委員会は、7月22、23日、宮城県柴田町と山形県南陽市で所管事務調査を実施しました。

柴田町の子ども議会は、平成14年度から実施しています。きっかけは、前町長が今から24年前に就任し、当時、厳しい財政状況の中、お金をかけずに、未来を担う子ども達の思いや視点、発想をまちづくりに活かしたいとスタートしました。狙いは、三つです。一つは地方自治の仕組みについて、自分の町を題材とし、自ら子ども議会に参加体験、理解を深めること。二つ目は、地域の課題を発見し、自分事として考え、行動するきっかけをつくる。三つ目は、子ども達の質問、提案をまちづくりに活かすであります。実際に、令和8年度予算計上した事業に、昇降口

にスロープや点字ブロック設置や公園に遊具設置などがあります。

南陽市の南陽みらい議会は、将来を担う人材育成の一環で、市内の3中学校と南陽高校の生徒たちを対象に令和5年度に立ち上げた事業です。4月の募集、メンバー選出・選挙、第1回議会（開会、所信表明）、第2回（一般質問、政策検討）、第3回（予算案提案）、9月から11月は、政策実現期間。第4回議会は、（実績報告会・閉会）となり、議会は本会議場を使用しています。市から教育委員会へ補助金という形で100万円の予算があり、政策実現のための50万円の経費等に50万計上しています。令和7年度の主な事業に、スイーツ・スムーズー開発プロジェクト、若者視点のイベント企画・運営や魅力発信・PR事業を実施しています。

（文責者…委員長 永井 昌孝）



子ども議会
を学ぶ（柴田町）

広報広聴特別委員会

寄居町を視察研修

調査項目

▽議会の広報広聴活動について

広報公聴特別委員会では7月30日、先進的な広報公聴活動をおこなっている埼玉県寄居町議会を視察しました。特に議会だより「お元気ですか寄居町議会です」は、町村議会広報全国コンクールで過去に何度も上位入賞や全国第1位（最優秀賞）に輝くなど全国的にも高く評価されています。

その内容は、「読まない広報紙は意味がない」との方針のもと、文字情報を必要最低限にし、代わりに市民の写真やインタビューなどを載せるなど、市民目線を意識した紙面構成で、デジタルで読み手の目を引くなど「読ませる」工夫が随所に見られます。取材も議員自身が行っています。ときには2人ペアでインタビューを行うこともあるとのこと。

また、編集は印刷業者に委託し、プロによるレイアウトで紙面を

作り込んでいます。

寄居町に比べると、北秋田市の議会だより「ぎかいの杜」は、文字情報による説明が多く事務的で、情報量が多いものの決して「目を引く」紙面とは言えません。寄居町議会の皆さんからは、「表紙の画像と内容を一致させてはどうか」「寄居の紙面構成をそのまま活用しては」などとの意見やアドバイスをいただきました。

このほか▽自治会など特定の市民団体を対象にした議会報告会▽会議録公開▽議会録画配信などを通じて住民との双方の関係づくりに取り組んでいます。今後は寄居町議会の広報公聴活動を参考に市民が参加しやすい議会報告会を目指し、より市民に身近な活動を行いたいと考えています。

（文責者…委員長 佐藤 伸）



広報広聴活動
を学ぶ（寄居町）

議会の動き

＜7月16日～10月15日＞

7月

- 16日・議会改革特別委員会
- 17日・総務文教常任委員会
所管事務調査
 - ・秋田県北部市議会連絡協議会正副議長・事務局長会議
- 22日・議会運営委員会
所管事務調査（～24日）
- 23日・秋田市市議会議長会定例会（～24日）
- 26日・秋田県消防協会大館北秋田支部消防訓練大会
- 27日・産業建設常任委員会
所管事務調査
- 28日・秋田市市議会議長会県選出国會議員への実行運動
- 29日・広報広聴特別委員会
所管事務調査（～30日）
- 30日・東北日本海沿岸市町村議会協議会中央要望（～31日）

8月

- 3日・秋田県北部地域夏期合同要望活動（東京都）
- 4日・広報広聴特別委員会
- 6日・北秋田首都圏企業懇談会
- 7日・秋田県北部地域夏期合同要望活動（仙台市）
- 10日・秋田県後期高齢者医療広域連合議会8月臨時会
- 14日・合川まとう火、合川ふるさとまつり
- 15日・北秋田市二十歳の集い
- 20日・議会運営委員会
- 21日・北秋田市戦没者追悼式
 - ・秋田県遺族連合会北秋田郡市戦没者遺族地方大会
- 24日・議会運営委員会
- 28日・小阿仁川水系対策委員会総会及び小阿仁川流況調査

9月

- 1日・9月定例会（初日）
 - ・決算特別委員会全体会
 - ・議会運営委員会
 - ・広報広聴特別委員会
- 3日・本会議 一般質問①
 - ・議会運営委員会
- 4日・本会議 一般質問②
- 5日・北秋田市発明工夫展
- 7日・総務文教常任委員会
 - ・市民福祉常任委員会
 - ・産業建設常任委員会
- 8日・北秋田市病院運営懇談会
- 10日～11日
 - ・決算特別委員会分科会
 - └ 総務文教分科会
 - └ 市民福祉分科会
 - └ 産業建設分科会
- 12日・北秋田市縄文まつり
- 17日・決算特別委員会各分科会総括質疑
 - ・議会運営委員会
- 28日・決算特別委員会全体会
 - ・議会改革特別委員会

議会報告会を開催します

〔日時〕 11月15日（日） 10時～12時

参加の申込みは不要です

開かれた議会及び議会活性化を推進するため、議会報告会を開催し、議会の活動状況をはじめ、特に議論となりました話題などについて報告します。

参加の申込みは必要ございませんので、お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

また、市内4ヶ所で開催されておりますので、好きな会場にお越しください。

※昨年と場所が変更している地区がありますので、ご確認ください。

テーマは、「住みやすい街作りについて」

A班

＜班長＞木村信人

＜班員＞福田牧子／松橋史尚／佐藤 伸／松橋久敏

合川地区

〔会場〕合川公民館

B班

＜班長＞福岡由巳

＜班員＞小松正彦／佐藤将人／佐々木正史

阿仁地区

〔会場〕阿仁山村開発センター

C班

＜班長＞板垣 淳

＜班員＞成田康浩／畠山正和／木村謙一

鷹巣地区

〔会場〕交流センター

D班

＜班長＞杉渕一弘

＜班員＞永井昌孝／石崎賢一／久留嶋範子

森吉地区

〔会場〕四季美館

朗読ボランティアやまびこ

目の不自由な方に広報の音
訳CDを配布します

目の不自由な方々にも市議会広報の内容をお伝えするため、市内で活動する朗読ボランティア「やまびこ」では、市議会広報の読み上げを録音した音訳CDを無料で配布しています。

配布を希望される方は、左記までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

朗読ボランティア やまびこ

代表 萩原順子

☎0186-63-2109
（社会福祉協議会内）

ボランティアセンター

9月

- 29日・国道整備促進期成同盟会
- 30日・9月定例会（最終日）
 - ・議会運営委員会

10月

- 1日・地域医療政策セミナー
- 4日・縄文シティアサミットinきたあきた
- 13日・秋田県北部地域秋期合同要望活動
 - ・広報広聴特別委員会

広報広聴特別委員会

委員長 佐藤 伸
副委員長 木村 謙一
委員 成田 康浩
委員 木村 信人
委員 福岡 由巳
委員 杉渕 一弘